

こども若者★いけんぶらす

がいこく こども つた りかい 外国につながる子供たちの「伝えたい、理解したい！」 たいせつ きょういく を大切にする教育って？

文部科学省 総合教育政策局 国際教育課

令和7年11月 実施

2025年度「こども若者★いけんぶらす」事業



もんぶかがくしょう
文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

- 開催概要

- 参加者の意見

1. 学校生活について

2. 支援のありかたについて

3. 進路支援について

4. 自分の強みについて

テーマ	外国につながる子供たちの「伝えたい、理解したい！」を大切にする教育って？
担当省庁	文部科学省
テーマ説明	<p>令和5年度の公立学校に通う日本語指導が必要な児童生徒の数は約6.9万人と約10年間で2倍に増加しており、今後も増加が見込まれます。さらにこのうち約1割の児童生徒が特別な配慮に基づく指導を受けられていない状況も課題です。</p> <p>外国にルーツをもつ児童生徒の意見を聴くことで、こどもたちの思いや強みを尊重し、ありたい姿の実現を支えるよりこどもたち目線の施策としたいという思いから、本テーマを設定しています。</p>
参加対象者	【出向く型】全日制・定時制を設置する高等学校に通う外国につながる高校生
開催日時	令和7年度11月12日（水）
参加者数	9名

1. 学校生活について

質問 1. 日本に来てすぐ、学校生活でこまつたこと心配だったことはありますか？
どうやってその大変さをのりこえましたか？

友人・先生との関わり

- 日本語が話せなくて友達を作るのが大変だった。小学校の国際教室で頑張って勉強した。**自分から積極的に挨拶して初めて友達が作れるようになった。**
- 中学までは「何言ってるの」と言われて「ごめん」としか言えなかった。今までは「分かんねーよ」と突き放すような言い方ばかりだったが、高校になると周りのみんなも大人になっているから、「こういうことを言いたいの」と理解してくれようとする、寄り添ってくれるような人が多くなった。
- タブレットでその場で訳しながら会話を聞いていた。**
- 言語だけでなく文化も母国とは違い、どうやって他人と関わり合うか分からなかった。**全く別の言語、文化の中でかなり大変で、最初の1年はずっと帰りたいと思っていた。**
- 学校に国際教室があることで、学校の悩みを話せる場所・相手がいてよかったです。**
- 日本語ができず、（周りの会話が）理解できなくて流していたが、**日本語サポートの先生がついてからは大きく変わって、理解できるようになった。**

日本の学校文化等

- 学校にいる時間が日本は長いことに驚いた。母国では授業は4時間程度。**
- 最初柔道部に入ったが、当初、「部活動」がどういうものかわからず、大変だった。遊びみたいなものなのかなと思い、入部届を軽い気持ちで書いて、こんなにまじめな感じとは知らず大変だった。2年生の途中で辞めた。日本語教室で勉強した結果、2、3年生くらいになると日本語が分かるようになって、また柔道部に入り直した。
- 中学生の時は、野球をやりたかったけれど文字が読めなくて、**野球部があることが分からなかった。バスケ部しか読めなかつた。教えてもらえていたら、野球部に入れたかった。**
- 自分で掃除をすることは良いことだと思う。
- 「けんかはだめだ」ということをしっかり伝えた方が良い。日本では「けんかはだめ」ということを教えられて当たり前みたいになっているが、外国ではそうでない（けんかがそこまで悪くない）こともある。
- 学校から帰る間にどこかに行ってはダメということを知らなかつた。**

その他

- 日本に来る前から行きたくないと思っていた。**父親がもともと日本で長く働いていて、自分がコロナになったときに父親に日本に来るよう言われた。父親なので嫌だとは言えなかった。ほかの家族がまだ母国にいたので「日本に行きたい」とは思えなかった。
- （自分の意思関係なく）自分も強制的に「日本行け」という感じだった。**
- 母親が「息子に強くなつてほしい」という想いから特別扱いせずに、いきなり日本人いっぱいの中に入ることになった。最初「転校生が来た」とみんな近づいてきて来てくれたけど、全く（言ってることが）分からなかった。**もっと先生が最初生徒たちに説明してほしかつた。**

2. 支援のありかたについて

質問2. クラスで、どんなサポートがあると、もっと勉強しやすくなると思いますか？

教科の授業

- ある教科の授業は一方通行で考える時間が少ない。**日本語の授業中でも、外国人同士で科目の内容を話すことができる時間があると、お互い理解できるし意見交換もできるし、やつたら良いと思った。**
- 国語や数学で、まるで何を言っているかわからなかった。とりあえず頷いて、わかっているふりをしていた。数学は得意なので、話している内容がわからなくても勉強にはついていけた。
- 数学で習う内容が日本と自分の国で違う。母国で13歳で勉強する数学の内容と、日本で13歳で勉強する数学の内容が違う。**数学の内容について、英語か母国語で教えてもらうようなサポートがあると良いなと思う。
- 国語はとても難しい。小説や古文、文法も単語もわからない。現代文とか古文の前に、まずは日本語そのものを学びたい。
- 最初の頃は、テストにローマ字が付いていたのは本当に助かった。**
- ある授業で日本語が早くて難しかった時に、**サポートの先生がいつも隣に来て翻訳してくれた。**
- スライドに写真や動画を入れて、それを見ながら先生が教えてくれるとわかりやすい。**

取り出しの日本語教室等

- 中学に日本語の先生がいて、毎週木曜・金曜で日本語の勉強があった。行きたい学校のために必要な科目だけ教えてくれて、ありがたかった。
- 日本語の勉強のための授業があると嬉しい。**
- 高校のガイダンスルームの先生で、日本語能力試験のサポートをしてくれたのがよかったです。**
- その中学は自分だけが外国人だったから、先生2人と生徒は自分1人みたいな感じ。結構分かりやすくて良かった。最初はひらがなもわからなかったから、カードがあってそれでゲームしながら教えてもらっていた。
- 「サポート」と「自分で乗り越えるバランスをとること」が大事だと思う。国際教室でずっと学んでいて、日本語の上達には、一般の日本人の生徒の中に混ざっていた方が良かったのかなと感じる。**

ICT関係

- 通訳のアプリとか、イヤホンを繋いで同時翻訳とかしてくれると、嬉しい。同時通訳は難しいと思うけれど、あると嬉しい。
- 授業中のスマートフォンの使用がダメで、翻訳もできなかったのはつらかった。**
- 翻訳機を使っていたけど、音声とは全然違う言葉ばかり表示されて、困った。

3. 進路支援について

質問3. 進路を考えるときに、不安に思うこと、こまっていることはありますか？
どんなサポートがあればうれしいですか？

情報の取得

- 入試のシステムが分からなかつた。先生に聞いたり、インターネットで調べないといけなかつた。大学の説明会に行ったときに案内してくれる人が日本語で、コミュニケーションをとるのが難しく、必要なハンコをもらいに行くのも苦労した。
- 高校に行くのは当たり前と思っていたが、最後の1か月で成績が必要であることが理解でき始めて、勉強を追い込んでやつて高校に入ることができた。
- 大学のホームページ、翻訳されているページとされていないページがある。どこから読めばいいかわからない。翻訳してもよくわからない。
- 日本の社会的なルールや大学がどのような場所かわからない。受験ルールは分かるけれど、どのような大学があるのか、どのような生活なのかが分からぬ。だからまだちゃんと考えられていない。
- 進路に関して、正しい情報を教えてほしい。授業以外でも、もっと（サポートが）あつたら良いなと感じる。無料のものや教えてほしいときに行けるようなフレキシブルなものがあると良い。

進路選択

- 自治体のオンラインでの日本語クラスを受けていた。そのクラスで「日本の高校を卒業したい」と伝えたら、外国人支援を行うNPO団体を紹介してくれたので登録した。朝NPOに行って、夜は自治体のオンラインクラスを取っていた。NPOで「日本の大学に進学したい」と伝えたら、この高校を勧めてくれた。
- 自分のレベルにあった高校を選んだ。外国人等特別募集があるからこの学校を選んだ。中学校の先生からそのような募集があることを教えてもらった。
- 外国人支援を行うNPO団体に通っていて、受験のためのサポートをしてくれた。他の高校では、3週間に1回くらい進路について個別で相談する時間があるよう。
- ホームルームで毎週水曜日将来のことを考える機会を作ってくれている。英語の先生になりたいと言つたら、適切な大学を紹介してくれたりしている。

今後の夢

- 日本にいたいと思っている。大学に進みたい。学費の関係で母国に帰ることも考えたが、父に相談したら「気にしなくてよい」と言ってくれた。
- 自指している大学が獣医関係のため、日本での進学は難しいと学校の先生に言われている。どうしても獣医の勉強を、日本か母国でしたいと思っている。まずは、日本で夢を叶えるために頑張りたい。（日本で夢をかなえることが）不可能であれば、母国に帰国して大学に行くことも考えている。
- 一般受験はもう無理だと感じていて、英語とか他の方法で入学したいと考えているけど、（その入試方式をとっている）大学がレベルが高くて入れるかなどという不安がある。
- 通訳じゃなくて、サポートーのような仕事をしたいけれど、自分の語学力はまだまだだと思う。母国語を活かしたいけれど、自分の日本語がまだまだ。自分で日本語の勉強をして、サポートーのような仕事になりたい。

4. 自分の強みについて

質問4. 自分の強みは何だと思いますか？その強みが生きるために、どんなことが社会だとよいと思いますか？

自分の強み

- **人の話を聞くのが好きなことが、自分の強みだと思う。**相手の考えていることを理解できる。しっかり聞いているから、答えることも正確にできると思う。
- 私は柔道が好きなので、柔道クラブとか自分の特技が生かせる場があるとよい。今の学校にはクラブがない。
- **自分の強みが何かわからない。**
- **（自分の母国語を生かす機会は学校内であるか？と問われ）ある。機会があつたら活かしたいかはちょっと悩む。**
- **学校説明会があり、自分と同じ母国から来た生徒がいて、日本が全然わかつていなくて（自分が母国語で学校のことを）説明した。**
- 謹めないこと。努力家とは言われることが多い。できるかできないかは関係なく、やり続けられるところが自分の強みだと思う。諦めたいと思っていても、やるしかないとしたら進む力はあると感じる。

どんな社会がよいか

- **大切なことは、先生が生徒それぞれの特徴に目を向けること。外国人・日本人関係なく、生徒のそれぞれの特徴に目を向けてくれると嬉しい。生徒個人に目を向けてくれないと、生徒のやる気をなくしてしまい、もう学校に来たくないとなってしまうと思う。**みんなのいいところを伸ばすという思いを、先生全員が持つことが大事。勉強はしたいが、学校が良い場所と感じないと学校に行きたくない。学びたいから、良い場所だと思って学校に行きたいたい。私より周りの友達が困っている。周りの友達は、（学校に対して）場として良い場所だと思えるようになると学校に行きたくなると思う。先生がひとりひとりに目を向ければ、良い場所になると思う。
- 自分が関わる中ではいないが、「日本人はこうだ」「外国人はこうだ」というステレオタイプはよくない。ネットに書いてあることで、「〇〇人」とくられることはよくある。
- **外国人への扱いではなく、一人間として接してほしい。小中で外国人であることで「何言ってるの」と言われたりで嫌な気持ちになったことがあったから、小中学校から外国人への接し方を教えられると良いと感じる。**
- **日本は外国人に厳しいと思う。**例えば「日本に来て勉強するにはN4レベルはないと難しいですよ」のようなアナウンスが（日本に来ようとしている外国人に向けて）できると良い。自分の今後の進路、大学はどこ行くかとか仕事はどうするかがよく分からぬ。
- **自分の両親は（母国で）大学まで勉強した強みを日本で生かせていない。**具体的に言うと、自分の親は弁護士だったが、日本でできていない。自国で学んだもの・強みを日本でも生かせるような社会にしてもらいたい。

質問★. 意見聴取に参加してみてどうだったか

- ・ すごく良かった。それぞれの考え方を知ることができた。いろんな人の価値観を知れた。
- ・ **自分の考えていることを言ってよかったです、クラスメイトの考えていることを知れてよかったです。**
- ・ 自分は日本に来た時困ったことがなかったけど、困っている人の気持ちも知ることができた。あまり普段からこういう話をすることはない。
- ・ **自分がずっと言いたかったことをやつと言えた。**
- ・ **自分が日本に最初来た時と同じ経験をした人と会えて、自分だけの悩みじゃないんだと思ってよかったです。**
- ・ 色々な人の意見を聴けてよかったです。
- ・ もっとたくさんの人と話したい。人数が少ない。もっといろんな意見が聴きたい。
- ・ **今までのことを思い出して、よく頑張ったなど自分でも感じる。自分の過去の話を話せて楽しかった。これが社会の貢献になるのがうれしい。**
- ・ みんなの話を聞いて、いろいろなことを思い出していて、自分だけじゃなくてみんなも苦労してきたんだなと感じた。だからこそお互いにサポートできると良いのかなとも思った。（同じ境遇の）他の人から学ぶことが大事。
- ・ **みんな日本に来て同じ問題を抱えているんだなと感じた。サポートが必要だと感じる。例えば今日しなきゃいけない宿題とかだと、今日やらなきゃいけないことは黒板に書いて、「〇〇さん（外国の生徒）はこれをノートに書いてください」など外国の生徒向けに伝え方を工夫してほしいと感じた。先生だけじゃなくて友達に相談しても言語が違うから難しかった。**